



北海道北見柏陽高等学校同窓会「かしわ会東京支部」2021年度会報
発行日 2021年7月31日
発行者 北海道北見柏陽高等学校同窓会 東京支部
著作 敏明 神奈川県川崎市麻生区岡上 1462-48

二〇二一年度東京支部総会・

懇親会の開催に当たって

かしわ会東京支部支部長 著作敏明

緊急事態宣言が発令されている6月、複雑な気持ちでこの原稿を書いています。

昨年は残念ながら新型コロナウイルス感染症の拡大により、東京支部総会・懇親会を中止せざるを得ませんでした。中止のご案内に「来年はお元気な姿でお会いできることを楽しみに」と書きましたが、東京では3回目の「緊急事態宣言」が発令・解除された後に、引き続き「まん延防止等重点措置」が適用されており予断を許しません。

これまで当たり前だった「人と人のつながり」が突然分断されてしまったのが、この「コロナ禍」という時代です。全国的にワクチン接種が進んでおりますが、以前の生活に戻るのにはまだ先のようにです。

大先輩泉さん(3期)の言葉です「コロナで1年損をしたので、その分長く生きることにした」。

人生100年時代、柏陽高校も創立100周年を迎えようとしています。我々東京支部も来年で30周年を迎えます。

かしわ会東京支部は、北見柏陽高校という共通の学び舎を卒業して得た絆があります。

今は新型コロナウイルスの終息を期待し、総会・懇親会に皆さまを安心して迎えようという祈る思いで一杯です。

皆さま、くれぐれも新型コロナウイルスに負けず、元気な姿でお会いできることを心より願っております。

二〇二一年度役員紹介

昨年度総会にて紹介できませんでした。引き続き会報にて失礼します。

支部長



著作敏明(20期)

副支部長



千田 潤(20期)

副支部長



小竹利和(20期)

副支部長



古賀恵美子(21期)

幹事長



岡崎 誠(22期)

副幹事長



鏡 康(27期)

副幹事長



豊嶋亨一(27期)

会計



菅野和彦(28期)

会報



角田丈志(19期)

会報



讃岐 雅(24期)

会計監査

椎名孝典(18期)

高島正志(18期)

二〇二〇年度活動報告

および承認事項

活動報告

会報発行

会計報告(二〇二〇年度)

・前期繰越金	32万7924円
・収入計	10万0000円
・支出計	13万2190円
・次期繰越金	29万5734円

〆寄付

泉 宏吉様(3期)

千葉県成田市在住
葉書475枚

〆計報

長谷川俊郎様(1期)

かしわ会東京支部初代支部長
令和2年8月逝去

児玉健次先生

日本史担当・元衆議院議員
令和3年2月逝去

菊川 哲先生

保健体育担当・陸上部顧問
昭和38年9月、昭和45年3月、
令和2年8月逝去

2021年度 東京支部総会の開催に寄せて

かしわ会東京支部総会に寄せて

北海道北見柏陽高等学校同窓会

かしわ会会長 舩川 誠

東京支部の皆さんお元気にお過ごしですか。今年の原稿を書きながら、2年ぶりに総会・懇親会が開催されこれまでとは少し違うスタイルになっていたとしても、また顔を合せることができ、思い出話で盛り上がる様子を思っています。しかし、本当に目に見えない小さなウイルスに振り回される生活がここまで続くことになるとは・・・の思いです。ごく当たり前の日常、人生の節目や記念となる大切な時間が奪われる世の中、こんな状況の中で高校生活を送らなければならない現役の柏陽生たち。ただ、これも「長い人生の中で糧として活かしてください」としか言葉の掛けようがありません。

北海道は今、3度目の緊急事態宣言下にあります。今年の「ぼんちまつり」も中止となりました。オンラインピック開催の是非について様々な視点や立場から議論がなされています。この会報が東京支部の皆さんに届く頃には結果も出ていますが、開催されることを信じ努力を重ねている選手のことを思うと、万全の対策を講じて東京五輪・パラリンピックが開催され、それが今のこの雰囲気を変える一つのきっかけとなり、また皆さんと集うことができる楽しい秋を迎えられるようになっていければいいなと願っております。

今年もまた写真を2枚載せました。

左右側の写真は、昔のフミヤ書店の辺りから北見駅の方角に向けた写真です。奥にある茶色い三角屋根は現在の北見駅の一部で、その右が平成30年12月に供用開始された新しいバスターミナルです。その昔、歴史を感じさせる堂々とした旭川鉄道管理

局があった場所です。私が現役の頃はすぐ隣に北見バス本社があり、駅を出ると名店街、ごちやごちやした感じでしたが、昭和の賑やかさが懐かしく思い出されます。

右側の写真は、小公園の向かいから、北見駅を見下ろすように撮りました。左側手前から北見経済センター

(昔の北見会館です)、茶色い建物が北洋銀行店舗(昔の拓銀)、後ろの大規模ビルがあった場所には新しくカンテックビルが建ち、大きくそびえるのが北見信金本店です。この景色も、再開発事業で3、4年後には大きく変わります。新しい機能集積エリアとして賑わいを創出するコンパクトな街づくりの一環です。ただ、何でもコンパクトにしなければならぬ北見市の現状には少し寂しい気持ちです。変わらぬのは北見の綺麗な青空だけです。

コロナ禍で思うように準備が進みませんが、再来年には記念すべき学校創立100周年を迎えます。皆様のご健勝とご活躍をご祈念申し上げ、同窓会長としてのご挨拶といたします。



かしわ会東京支部の皆さんへ

札幌かしわ会会長 中村 敬臣

かしわ会東京支部の皆様 お元気でお過ごしのことと思います。

「札幌かしわ会」会長を仰せつかっております21期生、上常呂中学校出身の中村敬臣です。新型コロナウイルスの感染拡大も2年目を迎えました。

北海道の中でもここ札幌は、道内外との人の交流が多い所であるため、感染拡大の波を何度も受け、今や道庁や札幌市から「できるだけ札幌から出ないように」また「札幌に行かないように」といったお触れが出され、とても窮屈な生活を強いられています。

このため、昨年来「札幌かしわ会」の活動も大きな制約を受けており、同級生同士の集まりさえも思うように進めることができません。しかしながら、

「明けない夜はない」と言いますし、トンネルの向こうには必ず明るい出口が待っていることを信じ、母校の校訓である「柏魂陽心」の心意気でこの難局を乗り切っていききたいものです。

最後になりましたが、かしわ会東京支部の皆様方ますますのご健勝を北の大地からお祈りしております。



「令和3年度の始まりにあたって」

(着任あいさつ)

北海道北見柏陽高等学校長 青木祐治

かしわ会東京支部の皆様におかれましては、母校の教育活動への物心にわたる御支援をいただいておりますことに心より感謝申し上げます。

今年度、十勝管内大樹高等学校から着任いたしました青木祐治（あおき ゆうじ）と申します。



オホーツクの伝統校に勤務できる喜びと共に、山本周男前校長の思いを受け継ぎ、柏陽生一人ひとりの夢実現のため、また、地域をはじめ広く社会に貢献できる有為な人材を育成するため力を尽くす所存です。

去る、4月8日に行いました入学式は、舛川誠同窓会長様の御臨席を賜り、200名の新入生を迎え、全校生徒591名、教職員49名で、今年度の教育活動を始めました。

昨年度来の新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中ですが、ZOOM



4月8日(月) 入学式の様子

を用いた集会や講話、パレードはできないものの行燈製作を行う柏陽祭等、対策を講じながら伝統の継承と時代に応じた学習や行事の遂行、今後更には、創立100周年事業に向けて取り組んで参ります。現状において、感染症の影響がまだまだ心配される日々ですが、皆様の御健勝をお祈り申し上げますと

共に、本校への変わらぬ御理解と御支援を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。



現在の校舎風景



現在の正門風景



創立当時の正門校舎風景



50年前の旧正門校舎風景

トピック

活動報告

女子バレーボール部顧問

坂本 尚悟

女子バレーボール部は、現在3年生5名、2年生9名、1年生7名の計21名で活動しています。昨年11月に行われた春高全道大会では、強豪私立高校2校に対していずれもフルセットまでもつれる激戦の末に勝利し、本大会では北見柏陽高校初のベスト8を達成しました。

また、5月に行われた高体連支部大会では、オホーツク支部8連覇に挑戦しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための学級閉鎖により、大会前日に主力選手を含む2年生8名を欠く緊急事態もあり、惜しくも準優勝という結果に終わり、第2代表での全道大会出場（8年連続）となりました。

「応援されるチーム」をスピリットとし、バレーボールを通して人間性を磨いていくこと、何事にも向上心を持って挑戦し続けること、支えてくれる人に感謝の気持ちを表現できる人間になることを目標に活動しています。

今後、伝統ある北見柏陽高校のプライドを胸に、日々邁進していきます。今後とも同窓会の皆様の応援をいただきたく、よろしくお願いいたします。



女子バレーボールの皆さん

会員メンバー便り

母校から得た深い縁

24期 有田敏彦

24期（昭和49年3月）卒業の有田敏彦です。

2021年度かしわ会東京支部の会報発行を心よりお祝い申し上げます。また、引き続き新型コロナウイルスの影響があり本会運営などで大変かと思いますが、何よりも継続されることに感謝申し上げます。

さて、私は2021年3月をもって18年間勤めた北見工業大学を定年退職致しました。本年度は特任として週の半分を大学で働き、残り半分は地域活性化に向けてベンチャー企業を大学から街場に移すなど相変わらず2足の草鞋で活動しています。

実はこの活動を支えているのは「母校から得た深い縁」です。大学では地域連携を主な仕事としていましたが、母校の縁なしに語ることは出来ません。我々の仕事にとって極めて重要なのは地域企業との信頼関係です。「私は柏陽高校出身です」「野球部でした」「甲子園へ行った翌年の入学です」と言うだけで、一気に近づけます。また、このようなワードを与えてくれた諸先輩方々のご厚意に深く感謝しております。

一方で、同期の塩見君が校長職在任時から、現在も柏陽高校の評議員をしており、高校と大学の橋渡しをさせて頂いております。校舎は変わり色々解らない場所もありますが、授業参観や文化祭の行灯製作の見学など、思わず高校時代が蘇ってきます。



有田さん：真中列ユニフォーム姿の左端の方

そのような思い出の中でも、やはり野球部には強い思いがあります。一昨年大学と高校との練習試合をさせてもらいました。両校の学生達が多く試合に出られるよう実施しましたが、大学生の方が喜んでいました。結果は新人チームだったこともあり大学生の勝ち！でしたが、「柏陽もっと頑張れよ！」は先輩としての辛口コメントです。本来は高野連からの指導があり2年くらい試合は出来なかったのが、監督にはご迷惑をかけました。

これからも、色々な立場で「母校から得た深い縁」を大事にし恩返しをしていきたいと思っております。

【編集者からの情報です】

有田さんの本年3月までの役職は以下の通りです。
北見工業大学 学術推進機構
社会連携推進センター長 兼 知的財産センター長 教授

私の思い出

27期 豊島享一

27期3年6組卒業 豊島享一です。

ご縁があり「東京かしわ会」に入会する事になり、また、昨年度からは本会の役員を仰せつかり広報的なご支援をする事になりました。不運にも新型コロナウイルスの影響を受け、昨年度は毎年10月に開催している「総会・懇親会」が中止となり、この便りを通してでしか会員の皆さま方とコミュニケーションが取れないのは非常に残念な思い出です。しかし、いつか懐かしい思い出にきっとなる日が来ると思います。

前置きが長くなりましたが、29期卒業生として思い出を綴ってみたいと思います。

今でも一番、印象に残っていることは、学校のコンセプトである「自由の学園」です。

「自由ではなく、自立して創造的で、行動に責任がある事」この教育が、今でも卒業後45年経って大学から東京で学び、激動のIT産業で、且つ大きな社会環境の変化の中で、楽しみながら仕事が出来たのも、そこに原点があるのかなと思ってます。

運動好きで、毎日部活では「バレー部」、授業前と昼休みはバスケットボールで遊び、文化祭の行灯行列では、電線に届く位のねぶたみたいなゴジラ行灯を作り、皆で楽しみ、春、秋の体育大会でも毎回優勝したく勉強もそっこのけで必死に頑張っていた事を思い出します。また、珍しく3年間クラス替えがなかったこともあり、仲のいいクラスで今でもほぼ全員の顔を覚えてます。

卒業後のクラスメートとの再会は8年前のフェースブックがきっかけで、それから帰省する度に誰かに会えること楽しみにしています。当時の思い出になる写真がないのですが、再会を果たした時に、北見・札幌で会った時の写真を載せてみます。同級生には無断で掲載しますがご了承下さい。いつになっても仲のいいクラスメートであり仲間です。



札幌にて 豊島さん：真ん中の方



北見にて 豊島さん：下段右端の方

会えば当時を思い出し、帰省した時は年老いた親の心配もありますが、同級生に会えるのが60歳を過ぎての楽しみです。

【編集後記】

皆さま「おー!!柏陽2021」をお届けします。
今回表紙を飾って頂いたのは「は女子バスケットボール部」の皆さんです。この「コロナ禍」の中で、各部対外試合、対外交流など制約を受けながらの活動を強いられておりますが、気落ちせず頑張って欲しいと思います。お忙しい中、原稿をお寄せくださいました方々、ありがとうございました。

讃岐 記